

第39回全国都市緑化北海道フェア基本計画(概要版)

1. 開催概要

1) 名称・愛称 正式名称：第39回全国都市緑化北海道フェア 愛称：ガーデンフェスタ北海道2022

2) 基本理念・基本方針

開催理念	基本方針
<p>豊富な森林湿原や湖沼等の雄大な自然に恵まれた北海道。日々の生活の場においても自然は身近な存在であり、花や緑を愛でる心が、暮らしに潤いを与え、安らぎと生き甲斐につながっている。市民の主体的な花と緑の活動が続けられてきた恵庭市。その実績は、“まちづくり”“ひとづくり”に大きな成果を生み、地域社会の元気の源となっている。</p> <p>これまで築きあげられてきた“恵庭の花の文化・市民の文化”の魅力が集約され、更なる飛躍の地となる「花の拠点」をメイン会場に、北海道の花と緑の文化を広く全国に発信する全国都市緑化フェアを開催します。</p>	<p>① 北海道ならではの花とガーデンの魅力で人々を感動させるフェア</p> <p>② 希望と活力あふれる“花のまちづくり”を次の世代に継承するフェア</p> <p>③ “日々の暮らしの潤い”“地域の絆”“豊かな地域社会”につながるフェア</p> <p>④ 花と緑の取組の歴史と経緯を踏まえ、多様な主体が効果的に連携するフェア</p>

3) 開催テーマ 『花と緑 ～恵みの庭を人がつながる北の大地から。』

4) 主催者等 提唱：国土交通省 / 主催：北海道、恵庭市、公益財団法人都市緑化機構

5) 開催時期 令和4年6月25日(土) から7月24日(日)まで

※北海道フェア開催時の新型コロナウイルス等感染症の状況や、その時点における国・道・恵庭市の対処方針等に基づき適切な対策を講じることで、感染拡大の抑制に努めるものとする。

6) 会場

メイン会場・まちなか会場	花の拠点・中島公園、隣接する河川空間及びまちなか会場「市内の花のまちづくりの活動地域」(恵庭市)
協賛会場	えこりん村、サッポロビール北海道工場、恵庭ふるさと公園、ルルマップ自然公園ふれらんど(恵庭市)イコロの森(苫小牧市)、いわみざわ公園(岩見沢市)、ゆにガーデン(夕張郡由仁町)、国営滝野すずらん丘陵公園(札幌市南区)ウポポイ(民族共生象徴空間)(白老郡白老町)、真駒内公園(札幌市南区)他各道立公園など
スポット会場	駅や公共空間、イベントを行う会場など

7) 入場方式 メイン会場：無料 / 協賛会場：各事業主体の入場方式による。

8) 概算事業費：おおむね7億円 / 目標来場者数：期間中約30万人(メイン会場)

9) シンボルマーク：ひと目で北海道とわかる形であり、花と緑を愛する人の姿を表す。

10) イメージキャラクター：「ガーデンフェスタ北海道フレンズ」としてPR活動を行う。



シンボルマーク



えにわん



えびすくん



かりんちゃん



キュンちゃん

※この4キャラクターを基本とする。

2. 会場計画

「メイン+まちなか会場」会場計画

特徴① 花の拠点整備事業と恵庭かわまちづくり事業との連携

展開方針

- 北海道を代表するガーデナーがデザインした7つのガーデンからなる花の拠点(はなふる)をメイン会場とし、それぞれ特色あるガーデンを楽しんでいただくほか、センターハウス内観光案内所の活用により、北海道内の周遊も促すことが可能。
- 隣接する漁川(いざりがわ)の河川区域との連携により、花と緑のみならず、川と触れ合える機会を創出し、花と緑の大切さはもちろん、川や水の大切さについても学ぶことができる。
- 仮設駐車場を確保し、周辺交通への影響を抑える。
- 来訪者は、隣接する道と川の駅「花ロードえにわ」や農畜産物直売所「かのな」において、恵庭や北海道の「食」も楽しむことができる。
- 公共交通機関や徒歩での来場が容易な会場配置とし、自家用車での来場を抑える。

特徴② メイン会場を中心に恵庭市内の“花のまちづくりの魅力”や“市民の日々の活動”を巡り、楽しみ実感できる会場構成

展開方針

- JR恵み野駅から、恵み野商店街等を散策しながらメイン会場に徒歩で向かう。商店街のガーデンテーブル、ポケットパークや商店・個人宅のオープンガーデン等を楽しめるルートを設定する。
- 「花さんぼストリート祭」や「ガーデンツアー」などの活動を継承するとともに、フェアを契機に、市民参加による公共空間の緑化、個人の庭園づくりなどの活動を活性化させる。
- JR恵み野駅からメイン会場までの誘導として地元の小中学生が作成したコンテナに花を植栽したものを並べる。

休憩エリア①・にぎわい園路

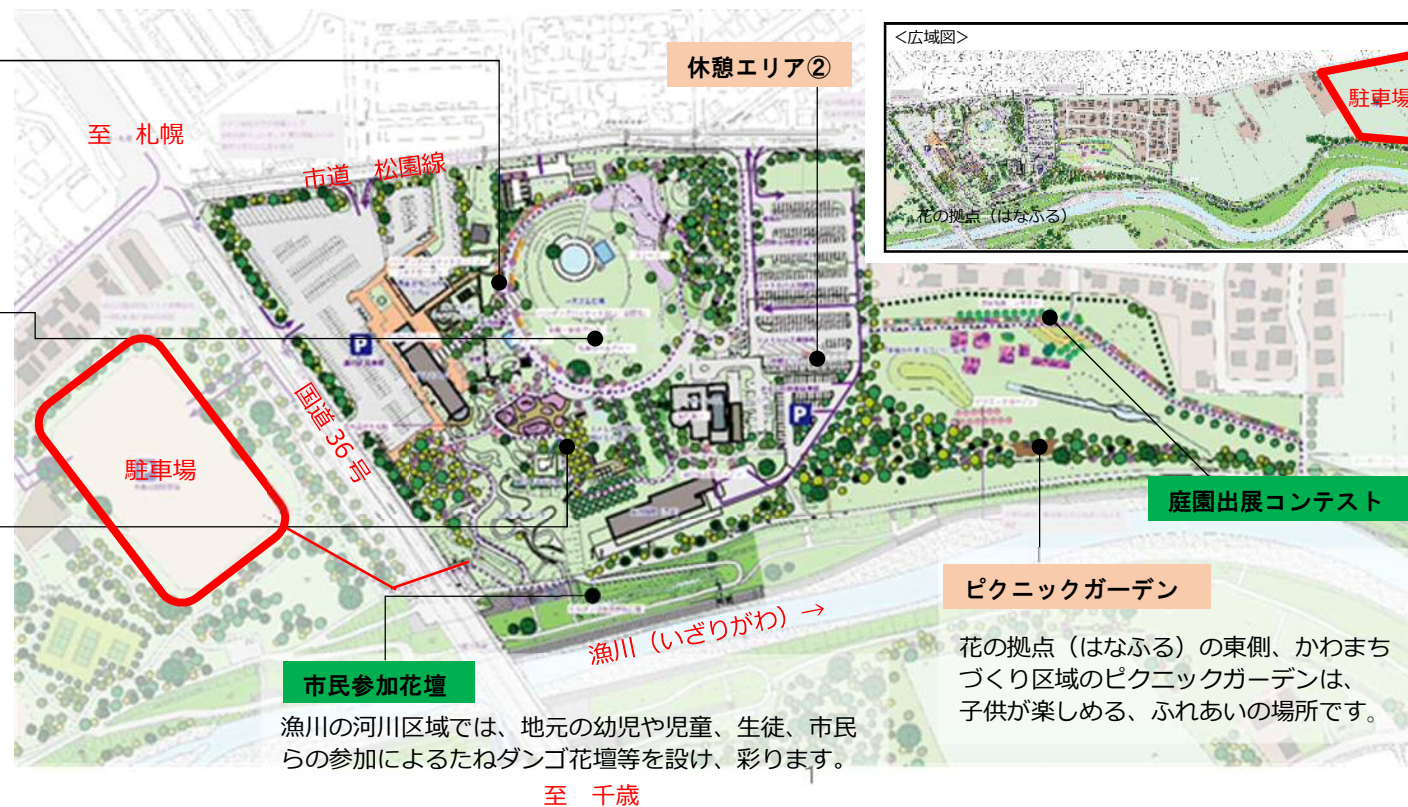
西側(道と川の駅側)のにぎわいのゾーンです。「アーカイブプロムナード」は恵庭の花のまちづくりのあゆみを紹介する園路、常設ステージ周辺、中央広場の外周園路は、飲食・物販や各種公演も行われます。

中央芝生広場

7つのガーデンに囲まれた中央芝生広場。開放的な空間にはステージや牧草ロールアートの展示が、周囲の園路はハンギングバスケットやコンテナガーデンが彩ります。

ガーデンエリア

花の拠点(はなふる)のメインエリアです。北海道を代表するガーデナーによる7つのガーデンがあります。それぞれのガーデンは趣向を凝らして設計し、個性的に作り上げられています。



3. 事業計画

(1) 植物調達計画

- ◆花と緑に関する地域産業の振興、暮らしに身近な花と緑の需要向上につながる仕組みづくり
- 道内の花き、樹木の特徴や生産状況を踏まえつつ、生産団体等との連携協力により安定的な供給の確保とともに、北海道の花き園芸産業のさらなる活性化を図る。
- 恵庭市花苗生産組合やその他道内の花き関係事業者等で構成する「(仮称)ガーデンフェスタ北海道2022植物調達協議会」の設立を検討する。

(2) 展示・出展計画

- ◆花と緑のまちづくりにおける物的・人的資産を最大限に活かしながら北海道・恵庭市の魅力を発信する
- 北海道のガーデンの魅力や豊かなライフスタイルを発信するとともに、花と緑あふれる暮らしやガーデン運動の推進につなげる。
- 人々の暮らしの質を高める具体的な手法を提案し、花と緑に囲まれた豊かな暮らしへの意識を高める。
- 花のまちづくりの歴史と成果を振り返り、次世代への継承と新たな文化の創造を図る。

区分	概要
主催者展示	「恵庭市の花のまちづくり運動の歴史と成果」を伝える展示等
企業・団体等出展	北海道の暮らしにあった花と緑の技術提案。企業や団体等による出展庭園
学校出展	地元の小中学生によるコンテナ作品の出展
体験出展(たねダンゴ等)	地元の幼児や小学生の参加によるたねダンゴ花壇
市民参加花壇	花や緑の愛好団体や個人・グループ、学校やボランティアの参加による花壇
ハンギングバスケット等	個人参加によるハンギングバスケット、コンテナガーデン作品
パネル・作品出展	屋内出展：市民の花と緑のパネル・作品展や全国の緑のまちづくり展



(3) 観客誘致・広報宣伝計画

- ◆花と緑の魅力で人々に感動を伝え、北海道や恵庭市の新たなファンの拡大を目指す
- 北海道フェアのみならず道内の花の観光促進も視野に入れた観客誘致を展開する。
- 緑化活動の拡大、花の産業促進、観光促進に向け、緑化事業や活動を行う企業や市民を中心に積極的な誘客を図る。
- 北海道および恵庭市や各種施設の広報ツールを最大限に活用し、地域に根差した広報戦略を展開する。
- SNSをはじめとする新しいスタイルの広報活動を取り入れる。

(4) 行催事計画

- ◆花と緑により人々が集い、交流する機会を更に発展させるとともに、次の世代への継承に繋がる取り組み
- フェア開催への機運を高めるイベントを効果的に実施するとともに、開催期間中では既存催事と連携しながら「花のまちえにわ」「市民が育むガーデン文化」を伝える催事を展開し、北海道ならではの文化の発信とにぎわいを創出する。
- 市民が主体となって企画提案する催事を展開し、「花のまちえにわ」を支える人々の知識と技術の強化を図る。

区分	概要
イベント	1年前イベント（広報宣伝活動と連携） 恵庭市で実施している事業との連携
公式行事	オープニングセレモニー・開会式・閉会式 内覧会（各関係者、マスメディア等を招待） 全国都市緑化祭（記念式典、記念植樹、記念祝賀）
メイン会場および近隣で実施する催事	恵庭市で実施している各種事業との連携 サポーターズクラブ企画、運営催事
シンポジウム	花と緑のまちづくりをテーマとするシンポジウムを開催



(5) 会場運営計画

- ◆市民参加による運営体制で、来訪者をもてなすとともに、安全で誰もが楽しめる会場を運営
- フェアへの市民参加・ネットワークの拡大や人材の育成も考慮しながら、フェア後の活動につながる組織、体制を構築する。
- 各サービス施設の効率的な配置・運用をはかり、来場者が不便を感じることなく、花と緑が楽しめる場を提供する。
- メイン、まちなか、協賛の各会場の情報連携を行い、北海道の花と緑のネットワーク構築につながる運営を実現する。

(6) 交通輸送計画

- ◆予想される多くの来場者の安全・確実・快適な交通アクセスへの対応
- 本フェアで相当数を占めると予想される自家用車対策については慎重な検討を行い、適切な交通輸送の計画を策定する。
- 公共交通機関利用を喚起する方策等を検討し、道路渋滞の緩和、周辺環境への配慮に努める。

(7) 協働推進・人材育成計画

- ◆市民による花のまちづくりに先進的に取り組む恵庭市の実績を活かし、持続発展する仕組みづくり
- フェア開催を契機にさらなる活動の促進と活動者の増幅を目指し、フェアの開催前から活動者の機運を高めるとともに、フェア後も継続できる体制づくりや人材づくりを目指す。
- 北海道フェアの応援団として「サポーターズクラブ」を結成し、フェア開始前からワークショップ形式を取り入れて緑化フェアについての意見交換を軸に、恵庭らしさ、北海道らしさのあるイベントの実現を目標に花や緑に関わらず、広く意見を出し合いながら、フェアでのイベント企画検討やイベントへの参加、ボランティアへの参加などの活動を行う。

(8) 協賛会場との連携計画

- ◆各会場でフェアの理念やテーマを共有したイベント等で連携し全道的に花と緑の魅力伝える活動を展開
- メイン会場である恵庭市を中心とした、近隣の花と緑の観光資源及び国営・道立の都市公園等を協賛会場として設定し、各会場を有機的に結びつけることにより、北海道の花と緑の魅力を発信
- 道内庭園とは連携イベントの開催や広報宣伝等一体に行いフェアを協力して盛り上げる。連携イベントの例として、メイン会場内における協賛会場のPRやスタンプラリーなど検討する。

4. スケジュール

円滑な事業推進・協力連携等を目的として、経済、観光、造園等の関連団体等で構成する実行委員会を設立する。

